

静かに流行？枝枯細菌病

最近話題のカシ・ナラ類の病気といえば「カシノナガキクイムシ被害」でしょう。1980年代後半から日本海側を中心に「ナラ類集団枯損」として注目され、富山県内でも2002年以降県西部から県全域へ拡大、去年には富山市の中心市街地（日枝神社）でも被害が確認され、話題になりました。

同じカシ類で、一部話題になっている別の病気があります。それが「シラカシ枝枯（えだがれ）細菌病」です。



シラカシ枝枯細菌病(矢印が枝枯部)
<http://www.soc.nii.ac.jp/thrs/pdf/4-2.pdf>

「シラカシ枝枯細菌病」は生垣や並木、雑木林などのアラカシやシラカシの新梢や枝が黒く変色し、葉が乾いたようになって枯れる病気です。具体的には、当年生枝に黒色（～濃褐色）の病斑が発生し、病斑が枝を一周するとそこから先の枝が枯れます。この病気で木自体が枯れることはあまりありませんが、一度発生し始めると次々に周囲の木に伝染し、枯れ枝を摘み取っても再発を繰り返す上、樹形が悪くなるために緑化樹としての価値が下がってしまいます。



シラカシ枝枯細菌病の新梢被害
<http://www.ffpri-kys.affrc.go.jp/tatuta/jubyousiedak.htm>

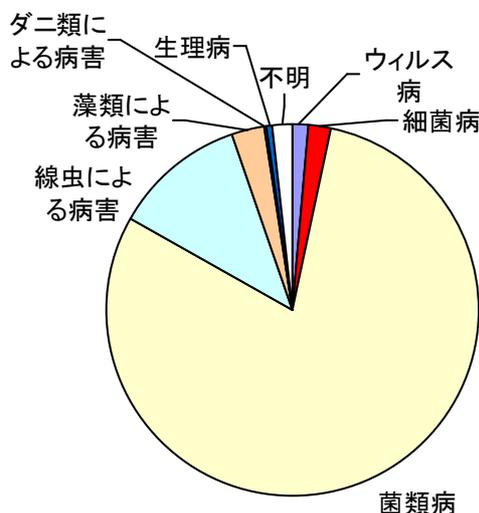
1980年代に南九州で確認されて以来主に九州で拡大しましたが、九州は緑化樹生産がさかんな地域で、中でもカシ類は目玉商品の一つであることから、緑化樹の種苗や商品木の流通過程で見落とされた罹病個体が広く移動し植栽され、本病が大きく拡大したと考えられています。今ではコナラなどの他のカシ・ナラ類にも発生し始めています。

防除方法は現在のところ、感染源となりうる被害樹・被害枝を早期に発見・除去し、新梢伸長期から発病初期に登録農薬を散布することとされています。

カシ類をはじめ多くの野生の木本植物の病原体は菌類であることがほとんどで細菌病はまれであることも、シラカシ枝枯細菌病の発見が遅れ被害が拡大した原因の一つのようです。もっとも、同じ木本植物である果樹類では細菌病は珍しくないため、なぜ野生木本植物に細菌病が少ないのか、またなぜ近年発生するようになったのか、未だ謎の多い病気です。

なおトウカエデの「首だれ細菌病」も同様の細菌病で、新葉が開く4月中旬～5月にかけて新梢に発生しますが、通常は8月になると回復します。

カシノナガキクイムシ被害はすっかりありふれた病気になりましたが、早合点することなく、しっかり観察した上で対処していきましょう。



広葉樹に記録された病害の種類とその比率（堀江(1989)よりグラフ化）。約2,000の病害のうち約8割が菌類による病気。

製品紹介

- 樹木類の枝枯細菌病に登録のある資材には次のようなものがあります。

バクテサイド水和剤



- 有効成分：オキシテトラサイクリン 1%
ストレプトマイシン硫酸塩 12.5%
水酸化第二銅 38.4%
(銅として25%)
- 毒性：普通物
- 魚毒性：B類
- 原体メーカー：ファイザー
- 包装：500g/袋、20袋入り/ケース
1kg/袋、10袋入り/ケース
- 使用時期：新梢伸長期～発病初期

グリーンドクター



- 有効成分：水酸化第二銅 61.4%
(銅として40%)
- 毒性：普通物
- 魚毒性：C類
- 原体メーカー：デュポン
- 包装：1kg/袋、10袋入り/ケース
- 使用時期：新梢伸長期～発病初期

MONTHLY TOPICS

21年農薬年度実績 農薬の出荷数量は減少、金額は増加

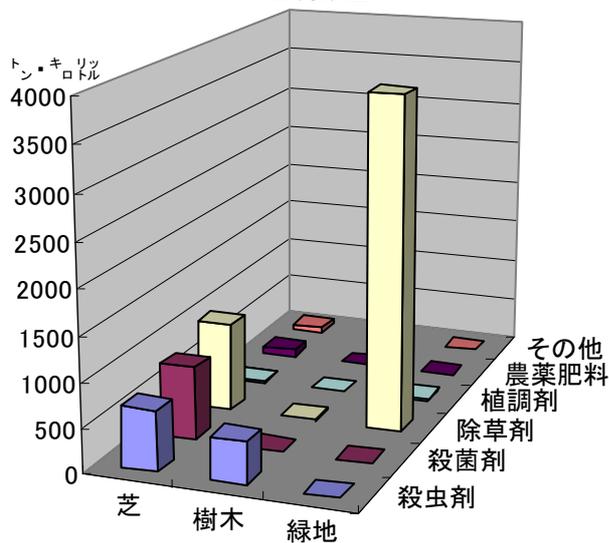
緑の安全推進協会がこのほど、平成21農薬年度（平成20年10月～同21年9月）ゴルフ場・緑地向け農薬出荷実績をまとめ、公表しました。これは同協会会員である35会社から寄せられた報告を取りまとめたものです。それによりますと、ゴルフ場・緑地分野の農薬出荷実績は全体の数量で7034トン・キロリットで、対前年比91.2%（8.8%減）、金額は241億2200万円となり、対前年比102.1%（2.1%増）で、「数量減、金額増」となりました。

農薬種別に見ますと、出荷数量が多いのは除草剤ですが、数量が増加したのは殺虫剤のみ（対前年比107.4%）で、他は全て10%程度減少しています。特に農薬肥料は対前年比38.2%で激減しています。金額ベースで見ると、殺虫剤と植調剤で約17%増加、他は減少しています。

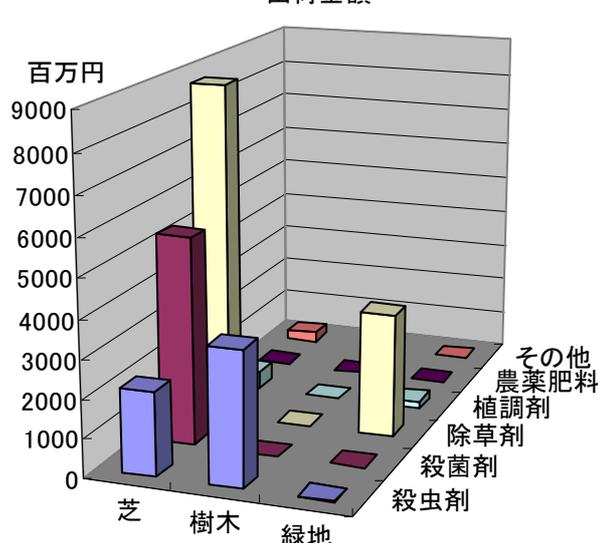
用途別で見ますと、出荷数量が多いのは緑地と芝地ですが、それらどちらも数量・金額共に減少したのに対し、樹木用が数量で3割増、金額で2割増となっています。

このデータを見る限り、芝地は植調剤、樹木や緑地では殺虫剤の使用が増えているものの、金額ベースでは芝地・樹木・緑地いずれも殺虫剤と植調剤が増加傾向にあるようです。

出荷数量



出荷金額



出荷数量(トン・キロリット)

	芝		樹木		緑地		計	
	実績	前年比	実績	前年比	実績	前年比	実績	前年比
殺虫剤	682	94.3	474	134.2	2	137.7	1,158	107.4
殺菌剤	832	92.3	1	103.9	-	68.6	833	92.3
除草剤	1,010	94	9	98.2	3,770	88.9	4,789	90
植調剤	19	112.9	-	-	40	86.2	59	93.8
農薬肥料	90	38.2	0	-	0	-	90	38.2
その他	68	98.8	37	91.1	0	-	105	95.9
計	2,701	89.4	521	129	3,812	88.9	7,034	91.2

出荷金額(百万円)

	芝		樹木		緑地		計	
	実績	前年比	実績	前年比	実績	前年比	実績	前年比
殺虫剤	2,142	110.7	3,482	122.3	4	133.3	5,628	117.6
殺菌剤	5,404	99.4	4	-	2	66.7	5,410	99.4
除草剤	8,798	97.1	11	91.7	3,235	96.6	12,044	97
植調剤	477	108.9	18	128.6	186	140.9	681	116.6
農薬肥料	28	48.3	0	-	0	-	28	48.3
その他	253	98.8	78	91.8	0	-	331	97.1
計	17,102	99.5	3,593	121.3	3,427	98.3	24,122	102.1

出典：「農経しんぼう」H21年12月7日号 及 緑の安全推進協会ホームページ より一部改変

取扱い・お問合せは—

緑を育み、未来へつなぐ



株式会社 サカエグリーン

〒930-0171 富山県富山市野々上147番地
TEL:076-434-0036 FAX:076-434-4968